

令和3年度 八代高等学校シラバス

教 科	国語	科 目	現代文 B	学 年	3	類 型	文系
単位数	3	教科書	精選 現代文 B 新訂版（大修館書店）				
副教材	新訂総合国語便覧（浜島書店）、意味から学ぶ頻出漢字 3000（第一学習社）、現代語練習帳ことのは（いっずな書店） 大学入試国語頻出問題 1200（いっずな書店）、現代文読解問題（駿台文庫）、現代文がトレーニング 40（尚文出版）、 共通テスト対策問題集						

学習目標	近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を育てる。
------	--

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	到達度自己評価 A B C
1 学 期	鷲田清一「こころは見える？」 森鷗外「舞姫」 高階秀爾「実体の美と状況の美」	・筆者の主張を読み取り、「こころ」について考える。 ・人物、情景、心情などを読み味わう。 ・筆者の主張を読み取り、「日本人の美意識」について考える。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
2 学 期	松浦寿輝「昔の光」 太宰治「待つ」 共通テストに向けた問題演習	・筆者の感性に触れ、自ら文章を書く際の材料を学ぶ取る。 ・筆者の描きたいことを読み取り、ものの見方や考え方を深める。 ・評論及び小説の問題に触れる中で思索を深めつつ、速読力と読解力を身につける。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
3 学 期	共通テストに向けた問題演習	・さまざまな文章に触れる中で、総合的な国語力を身につける。	☐ ☐ ☐

学習方法	評論においては、予習として、筆者の意見とその根拠になる部分を探し、重要な箇所に印や線を付けておく。小説では、心情の読み取り及びその要因を見つけ出す練習を反復する。話し合いを含めた言語活動も行う。週に1時間は演習の時間を設け、実践的な力をつける。
------	--

評価方法	考査による評価7～8割、平常の学習活動による評価2～3割で総合的に評価し、最終的に100点法の評点とともに5段階で評価を行う。
------	---

令和3年度 八代高等学校シラバス

教 科	国語	科 目	現代文 B	学 年	3	類 型	理系
単位数	2	教科書	精選 現代文 B 新訂版（大修館書店）				
副教材	新訂総合国語便覧（浜島書店）、意味から学ぶ頻出漢字 3000（第一学習社）、現代語練習帳ことのは（いっずな書店） 大学入試国語頻出問題 1200（いっずな書店）、現代文グレードアップ 40（尚文出版）、共通テスト対策問題集						

学習目標	近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を育てる。
------	--

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	到達度自己評価		
			A	B	C
1 学 期	鷲田清一「こころは見える？」	・筆者の主張を読み取り、「こころ」について考える。	☐	☐	☐
	森鷗外「舞姫」	・人物、情景、心情などを読み味わう。	☐	☐	☐
	高階秀爾「実体の美と状況の美」	・筆者の主張を読み取り、「日本人の美意識」について考える。	☐	☐	☐
2 学 期	松浦寿輝「昔の光」	・筆者の感性に触れ、自ら文章を書く際の材料を学ぶ取る。	☐	☐	☐
	太宰治「待つ」	・筆者の描きたいことを読み取り、ものの見方や考え方を深める。	☐	☐	☐
	共通テストに向けた問題演習	・評論及び小説の問題に触れる中で思索を深めつつ、速読力と読解力を身につける。	☐	☐	☐
3 学 期	共通テストに向けた問題演習	・さまざまな文章に触れる中で、総合的な国語力を身につける。	☐	☐	☐

学習方法	評論においては、予習として、筆者の意見とその根拠になる部分を探し、重要な箇所に印や線を付けておく。小説では、心情の読み取り及びその要因を見つけ出す練習を反復する。話し合いを含めた言語活動も行う。
------	---

評価方法	考查による評価7～8割、平常の学習活動による評価2～3割で総合的に評価し、最終的に100点法の評点とともに5段階で評価を行う。
------	---

令和3年度 八代高等学校シラバス

教 科	国語	科 目	古典B	学 年	3	類 型	文理
単位数	3	教科書	精選 古典 B【改訂版】（三省堂）				
副教材	新訂総合国語便覧（浜島書店）、体系古典文法（数研出版）、漢文必携（桐原書店）、古文単語330（いっずな書店） 大学入試国語頻出問題 1200（いっずな書店）、力をつける古典（数研出版）、共通テスト対策問題集						

学習目標	古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる。
------	---

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	到達度自己評価 A B C
1 学 期	「和泉式部と清少納言」 紫式部日記(紫式部) 「三横」(世説新語) 「やまと歌は」 古今和歌集仮名序(紀貫之) 「三往、乃見」 (三国志の世界)	・和泉式部と清少納言について学び、紫式部との関係を考える。 ・登場人物の描かれ方に着目し、人物像を理解する。 ・和歌の本質と効用がどのように捉えられているか理解する。 ・歴史を書き記した文章を正確に読み解き、その内容を理解する。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
2 学 期	「沓冠折句の歌」 俊頼髓脳(源俊頼) 「捕蛇者説」(柳宗元) 「深草の里」無名抄(鴨長明) 共通テストに向けた問題演習	・説明されている修辞法の内容と具体的な和歌との関係を理解する。 ・筆者が本作品を通じて為政者に伝えたかったことを理解する。 ・俊成と俊恵それぞれの「おもて歌」についての考えを読み取る。 ・古典の様々な問題に触れる中で思索を深めつつ、速読力と読解力を身につける。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
3 学 期	共通テストに向けた問題演習	・さまざまな文章に触れる中で、総合的な国語力を身につける。	☐ ☐ ☐

学習方法	音読を基本として、古文漢文に読み慣れる。重要事項(語彙・文法等)を踏まえながら、現代語訳を作成する。授業のまとめとして脚問と学習の手引きに取り組む。また、ペアやグループでの活動を通して他者と意見を共有しながら、自分自身の思索を深める。
------	---

評価方法	考查による評価7～8割、平常の学習活動による評価2～3割で総合的に評価し、最終的に100点法の評点とともに5段階で評価を行う。
------	---

令和3年度 八代高等学校シラバス

教 科	地理歴史	科 目	世界史B	学 年	3	類 型	文・理
単位数	4	教科書	詳説 世界史B				
副教材	『アカデミア世界史』『時代と流れで覚える！世界史B用語』『チェック&演習 世界史B』						

学習目標	1. 世界の歴史への興味・関心を高め、主体的に探究していく態度を養う。 2. 世界の歴史の大きな枠組みと流れを、日本の歴史とも関連付けながら理解させ、文化の多様性と現代世界の特質を広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を培う。 3. 国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。 4. 現代社会が直面する諸課題について、主体的な追究を通して認識を深めさせる。
------	--

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	到達度自己評価 A B C
1 学期	第1章 オリエンと地中海世界	・古代オリエン・ギリシア・ローマ世界	☐ ☐ ☐
	第2章 アジア・アメリカの古典文明	・南、東南アジア・中国・南北アメリカの諸文明	☐ ☐ ☐
	第3章 内陸アジア・東アジア世界の形成	・北方民族の活動、草原の遊牧民、オアシスの定住民	☐ ☐ ☐
	第4章 イスラム世界の形成発展	・東アジア文化圏の形成	☐ ☐ ☐
	第5章 ヨーロッパ世界の形成と発展	・イスラム世界の形成と発展	☐ ☐ ☐
	第6章 内陸アジア世界・東アジア世界の展開	・西・東ヨーロッパ世界の成立	☐ ☐ ☐
	第7章 アジア諸地域の繁栄	・西ヨーロッパ中世世界の変容、中世文化	☐ ☐ ☐
2 学期		・トルコ化とイスラム化の進展	☐ ☐ ☐
		・東アジア諸地域の自立化	☐ ☐ ☐
		・モンゴルの大帝国	☐ ☐ ☐
		・東アジア世界の動向	☐ ☐ ☐
		・清代の中国と隣接諸地域	☐ ☐ ☐
		・トルコ・イラン世界の展開	☐ ☐ ☐
		・ムガル帝国の興隆と東南アジア交易の発展	☐ ☐ ☐
	第8章 近世ヨーロッパ世界の形成	・ヨーロッパ世界の拡大	☐ ☐ ☐
	第9章 近世ヨーロッパ世界の展開	・ルネサンス・宗教改革	☐ ☐ ☐
	第10章 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立	・ヨーロッパ諸国の抗争と主権国家体制の形成	☐ ☐ ☐
	第11章 欧米における近代国民国家の発展	・重商主義と啓蒙専制主義	☐ ☐ ☐
	第12章 アジア諸地域の動揺	・ヨーロッパ諸国の海外進出	☐ ☐ ☐
	第13章 帝国主義とアジアの民族運動	・17～18世紀ヨーロッパの文化と社会	☐ ☐ ☐
		・産業革命	☐ ☐ ☐
		・アメリカ独立革命	☐ ☐ ☐
		・フランス革命とナポレオン	☐ ☐ ☐
		・ウィーン体制の成立	☐ ☐ ☐
		・ヨーロッパ再編と新統一国家の誕生	☐ ☐ ☐
		・南北アメリカの発展	☐ ☐ ☐
		・19世紀欧米の文化	☐ ☐ ☐
		・オスマン帝国支配の動揺と西アジア世界の変容	☐ ☐ ☐
		・南、東南アジアの植民地化	☐ ☐ ☐
		・東アジアの激動	☐ ☐ ☐
		・帝国主義と列強の展開	☐ ☐ ☐
		・世界分割と列強の対立	☐ ☐ ☐
		・アジア諸国の改革と民族運動	☐ ☐ ☐

3 学 期	第 14 章 二つの世界大戦	・ 第一次世界大戦とロシア革命	☐	☐	☐
		・ ヴェルサイユ体制下の欧米諸国	☐	☐	☐
		・ アジア・アフリカ地域の民族運動	☐	☐	☐
		・ 世界恐慌とファシズム諸国の侵略	☐	☐	☐
		・ 第二次世界大戦	☐	☐	☐
	第 15 章 冷戦と第三世界の 独立	・ 戦後世界秩序の形成とアジア諸地域の独立	☐	☐	☐
		・ 米ソ冷戦の激化と西欧・日本の経済復興	☐	☐	☐
		・ 第三世界の台頭と米ソの歩み寄り	☐	☐	☐
	第 16 章 現在の世界	・ 石油危機と世界経済の再編	☐	☐	☐
		・ 社会主義世界の変容とグローバリゼーションの進展	☐	☐	☐
		・ 途上国の民主化と独裁政権の動揺	☐	☐	☐
		・ 地域紛争の激化と深刻化する貧困	☐	☐	☐
		・ 現代文明の諸特徴	☐	☐	☐

学習方法	歴史事象を丸暗記するのではなく、因果関係を考察し論理的に考察すること。日頃からニュース等を通じて歴史的事象に対する理解を深め、歴史的見方考え方を育成すること。
------	---

評価方法	考查評価 8 割、平常評価 2 割（小テスト等を含む）で総合的に評価し、最終的に 100 点法の評点とともに 5 段階で評価を行う。
------	--

令和3年度 八代高等学校シラバス

教 科	地理歴史	科 目	日本史 B	学 年	3	類 型	文・理
単位数	4	教科書	詳説日本史 B（山川出版社）				
副教材	最新日本史図表（第一学習社） 新日本史研究ノート・標準編（啓隆社）						

学習目標	(1)わが国の歴史の展開を、世界史的視野に立って総合的に考察し、わが国の文化と伝統の特色についての認識を深めることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる「日本人」としての資質を養う。 (2)歴史を考察する基本的な方法を理解するとともに、主題を設定して追求する学習、地域社会にかかわる学習を通して、歴史への関心を高め、歴史的な見方や考え方を身につける。
------	---

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	到達度自己評価 A B C
1 学 期	第1章 日本文化のあけぼの	・旧石器・縄文の生活 ・農耕社会の成立と「くに」の成立	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
	第2章 律令国家の形成	・古墳文化とヤマト政権 ・推古朝の政治と仏教文化 ・大化の改新と律令国家への道 ・奈良時代の政治と鎮護国家思想	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
	第3章 貴族政治と国風文化	・平安遷都と律令国家の変質 ・藤原北家の繁栄と国風文化 ・地方の乱れと武士の登場	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
	第4章 中世社会の成立	・院政と平氏政権 ・鎌倉幕府の成立 ・執権政治と武士の社会 ・元寇と得宗専制政治 ・鎌倉文化と新仏教の展開	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
2 学 期	第5章 武家社会の成長	・南北朝の動乱と室町幕府の成立 ・戦乱の世と庶民の台頭	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
	第6章 幕藩体制の確立	・室町文化 ・統一への道 ・幕藩体制の成立	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
	第7章 幕藩体制の展開	・幕政の安定と経済の発展 ・元禄文化と儒学の興隆	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
	第8章 幕藩体制の動揺	・幕政の改革 ・内憂外患と幕府の衰退 ・化政文化と庶民	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
3 学 期	共通テスト対策演習 私大対策演習 超難関大対策演習	・マーク問題演習 ・記述問題演習 ・論述問題演習	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐

学習方法	歴史事象を丸暗記するのではなく、因果関係を考察し論理的に考察すること。
------	-------------------------------------

評価方法	考查評価7～8割、平常評価2～3割で総合的に評価し、最終的に100点法の評点とともに5段階で評価を行う。
------	--

令和3年度 八代高等学校シラバス

教 科	地理歴史	科 目	地理 B	学 年	3	類 型	文・理
単位数	4	教科書	新詳地理 B (帝国書院) 新詳高等地図 (帝国書院)				
副教材	最新地理図表 GEO (第一学習社)、ウィニングコンパス地理の整理と演習 (とうほう)						

学習目標	現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。
------	--

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	到達度自己評価 A B C
1 学 期	第Ⅰ編 地図と地理的技能	・ 地理情報と生活 図法の異なる世界地図の利用	☐ ☐ ☐
	第1章 地理情報と地図	・ GIS を活用した地理情報の加工と利用	☐ ☐ ☐
	第2章 地図と地域調査	・ 地図の選択と利用 地域調査の手法と地図の読図	☐ ☐ ☐
	第Ⅱ編 現代世界の系統地理的考察	・ 大地形、小地形の基礎的知識 自然災害との関係	☐ ☐ ☐
	第1章 自然環境	・ 地球規模の気象現象の特色と形成要因 異常気象	☐ ☐ ☐
	第2章 資源と産業	・ 世界の気候区分、植生、土壌 自然環境の諸問題	☐ ☐ ☐
		・ 世界の農業、林業、水産業 世界や日本の食料問題	☐ ☐ ☐
		・ 資源、エネルギーの特色と分布 エネルギー問題	☐ ☐ ☐
		・ 世界の工業の立地条件と工業地域の変容	☐ ☐ ☐
		・ 世界の交通・通信、貿易、商業、観光の動向	☐ ☐ ☐
2 学 期	第3章 人口と村落・都市	・ 人口の分布、増加、構成の形成要因と人口問題	☐ ☐ ☐
		・ 村落の立地と形態、都市の発達と変容と都市問題	☐ ☐ ☐
	第4章 生活文化と民族	・ 世界の衣食住の特色 言語・宗教の社会との関連	☐ ☐ ☐
	第Ⅲ編 現代世界の地誌的考察	・ 民族と国家の多様性 国家群と国連 領土問題	☐ ☐ ☐
	第1章 現代世界の地域区分	・ 国家規模の地域を多面的に捉え、地域の課題を考察	☐ ☐ ☐
	第2章 現代世界の諸地域	・ 地域や国家を比較し地域の特色や課題を考察	☐ ☐ ☐
3 学 期		・ 東アジア、東南アジア、南アジア、西アジアと中央アジア、アフリカ、ヨーロッパ、ロシア、アングロアメリカ、ラテンアメリカ、オセアニア	☐ ☐ ☐
	第3章 現代世界と日本	・ 自然、産業構造、人口、居住問題、他国との関わり	☐ ☐ ☐
	共通テスト対策 個別試験対策	マーク演習 論述問題演習	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐

学習方法	日頃からニュース等を通じて地理的事象に対する理解を深める努力をしておくこと。
------	--

評価方法	考查評価 7～8 割、平常評価 2～3 割で総合的に評価し、最終的に 100 点法の評点とともに 5 段階で評価を行う。
------	--

令和3年度 八代高等学校シラバス

教 科	公民	科 目	倫理	学 年	3	類 型	文系
単位数	4	教科書	「高等学校 改訂版 倫理 ETHICS」(第一学習社)				
副教材	「テオーリア 最新 倫理資料集 新版初訂」(第一学習社)						
	「チェック&演習 倫理/政経」(数研出版社)						
	「政治経済 10 分間テスト」(山川出版社)						

学習目標	人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、青年期における自己形成と人間としての在り方生き方について理解と施策を深めさせるとともに、人格の形成に努める実践的意欲を高め、他者と共に生きる主体としての自己の確立を促し、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。
------	---

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	到達度自己評価 A B C
1 学 期	第1章 青年期の課題と自己形成	青年期の意義と課題, 青年期の人間関係, 青年期の自己形成	☐ ☐ ☐
	第2章 人間としての自覚	古代ギリシアの思想	☐ ☐ ☐
	第3章 国際社会に生きる日本人としての自覚	ユダヤ教・キリスト教, イスラーム, 仏教, 中国思想	☐ ☐ ☐
		日本の風土と伝統, 外来思想の受容(仏教・儒学), 庶民思想(義理人情・国学など), 西洋思想との出会い	☐ ☐ ☐
2 学 期	第4章 現代に生きる人間の倫理	ルネサンスと宗教改革の影響, 経験論と合理論, 社会契約説, カントやヘーゲルの思想, 功利主義, プラグマティズム, 社会主義, 実存主義, 現代の思想	☐ ☐ ☐
	第5章 現代の諸課題と倫理	生命倫理, 環境倫理, 家族・地域社会の倫理課題, 情報倫理, 宗教・文化の倫理課題, 国際平和と人類の福祉	☐ ☐ ☐
	問題集を活用した学習の復習	マーク演習	☐ ☐ ☐
	大学入学共通テスト対策演習と解説	論述記述問題	☐ ☐ ☐
3 学 期	大学入学共通テスト対策総合問題演習	マーク演習	☐ ☐ ☐
		論述記述問題	☐ ☐ ☐

学習方法	①学習に取り組む姿勢として、常に「自分だったらどのように考え、行動するか」を意識する。 ②教科書・資料集を読み、その思想の背景やその後の影響などを関連付けながら理解を深める。 ③教科書・資料集の重要語句はしっかり覚え、説明できるようにする。
------	--

評価方法	①学期成績は、中間・期末考査及び実力考査等の成績をもとに、授業中の取組や課題の提出状況に応じて評価する。 ②学年成績は1～3学期までの評点を平均し、5段階で評価する。
------	--

令和3年度 八代高等学校シラバス

教 科	数学	科 目	数学Ⅱ+B	学 年	3	類 型	文系
単位数	(高進)3+2 (中進)2+3	教科書	「高等学校 数学Ⅱ・数学 B」(数研出版)				
副教材	「アップリフト数学Ⅰ A・Ⅱ B必修編」Z会出版、 「共通テスト 直前対策問題集Ⅰ AⅡ B」(河合出版)、プリント教材						

学習目標	数学的活動を通して、数学における基本的な概念や原理・法則の体系的な理解を深め、事象を数学的に考察し表現する能力を高め、創造性の基礎を培う。また、数学のよさを認識し、それらを積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断する態度を養う。
------	--

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	到達度自己評価 A B C
1 学 期	演習プリントや「アップリフト数学ⅠA・ⅡB必修編」の基本～標準問題の徹底演習	・公式の知識や、基本的な問題に対する理解がある。 ・正確な計算処理を行うことができる。 ・様々な問題に積極的に取り組む意欲がある。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
2 学 期	問題集「アップリフト数学ⅠA・ⅡB必修編」や演習プリントをテキストとした標準・発展問題の徹底演習 数学ⅠA・ⅡBのマーク演習	・標準的な問題に対して、公式等を活用し、解法を考え出すことができる。 ・発展的な問題に対して、類題をもとに解法を考え出すことができる。 ・様々な問題に積極的に取り組む意欲がある。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
3 学 期	数学ⅠA・ⅡBのマーク演習 2次対策総合問題演習	・60分の中で、スピーディー、かつ、正確な計算処理やマーク記入を行うことができる。 ・様々な視点から問題を捉え、解答を行うことができる。 ・様々な問題に積極的に取り組む意欲がある。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐

学習方法	予習を前提とした授業を行う。予習では例や例題を参考に、練習問題に取り組むこと。発展的な内容の問題にも対抗できるよう、一問一問解答をすぐに見ることなくじっくり考え、思考力を鍛えること。
------	---

評価方法	考查評価8割、平常評価2割で総合的に評価し、最終的に100点法の評点、および5段階で評価する。平常評価は課題提出、小テスト、授業への取り組み等で行う。
------	---

令和3年度 八代高等学校シラバス

教 科	数学	科 目	数学Ⅲ	学 年	3	類 型	高進理系
単位数	7	教科書	「高等学校 数学Ⅲ」（数研出版）				
副教材	「アップリフト数学ⅠA・ⅡB必修編」Z会出版、 「アップリフト数学Ⅲ」Z会出版、 「共通テスト 直前対策問題集ⅠAⅡB」（河合出版）、プリント教材						

学習目標	数学的活動を通して、数学における基本的な概念や原理・法則の体系的な理解を深め、事象を数学的に考察し表現する能力を高め、創造性の基礎を培う。また、数学のよさを認識し、それらを積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断する態度を養う。
------	--

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	到達自己評価 A B C
1 学 期	第3章 関数	簡単な分数関数と無理関数及びそれらのグラフの特徴について理解する。	☐ ☐ ☐
		合成関数や逆関数の意味を理解し、簡単な場合についてそれらを求める。	☐ ☐ ☐
	第4章 極限	数列の収束、発散を調べ、極限を求めることができる。	☐ ☐ ☐
	数列の極限	無限級数の収束・発散を、部分和の極限を調べられる。	☐ ☐ ☐
	第5章 微分法	式を適切に変形し、関数の極限を求められる。	☐ ☐ ☐
	導関数	三角関数を含む様々な関数の極限值を求められる。	☐ ☐ ☐
	いろいろな関数の導関数	様々な関数の連続、不連続を考察する。	☐ ☐ ☐
	第6章 微分法の応用	積、商の導関数、合成・逆関数の微分法を理解する。	☐ ☐ ☐
	導関数の応用	種々の関数の導関数を計算できる。	☐ ☐ ☐
	いろいろな応用	いろいろな曲線の接線の方程式を求められる。	☐ ☐ ☐
2 学 期	数学ⅠAⅡBⅢの演習	標準的、発展的な問題に対して、類題等を活用し、解法を考え出すことができる。	☐ ☐ ☐
	数学ⅠAⅡBのマーク演習	多角的に問題を捉え、解答を行うことができる。	☐ ☐ ☐
3 学 期	数学ⅠAⅡBのマーク演習	問題を適切に分析し、処理できるか	☐ ☐ ☐
	総合問題演習	入試の難問に積極的に挑戦する意欲があるか	☐ ☐ ☐

学習方法	予習を前提とした授業を行う。予習では例や例題を参考に、練習問題に取り組むこと。復習に「アップリフト数学ⅠA・ⅡB必修編」Z会出版、「アップリフト数学Ⅲ」Z会出版、「共通テスト 直前対策問題集ⅠAⅡB」(進研)、プリント教材を活用し、内容の定着を図ること。
------	---

評価方法	考查評価8割、平常評価2割で総合的に評価し、最終的に100点法の評点、および5段階で評価する。平常評価は課題提出、小テスト、授業への取り組み等で行う。
------	---

令和3年度 八代高等学校シラバス

教 科	数学	科 目	数学Ⅲ	学 年	3	類 型	中進理系
単位数	7	教科書	「高等学校 数学Ⅲ」（数研出版）				
副教材	「アップリフト数学ⅠＡ・ⅡＢ必修編」Ｚ会出版、 「アップリフト数学Ⅲ」Ｚ会出版、 「共通テスト 直前対策問題集ⅠＡⅡＢ」（河合出版）、プリント教材						

学習目標	数学的活動を通して、数学における基本的な概念や原理・法則の体系的な理解を深め、事象を数学的に考察し表現する能力を高め、創造性の基礎を培う。また、数学のよさを認識し、それらを積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断する態度を養う。
------	--

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	到達度自己評価 A B C
1 学 期	第7章 積分法とその応用 定積分、道のり	・面積・体積を定積分で表し、求められる。	☐ ☐ ☐
	数学ⅠAⅡBⅢの演習	・基本的な問題から発展的な問題まで、類題をもとに解法を考え出すことができる。	☐ ☐ ☐
2 学 期	数学ⅠAⅡBⅢの演習	・発展的な問題に対して、類題をもとに解法を考え出すことができる。	☐ ☐ ☐
		・様々な視点から問題を捉え、解答を行うことができる。	☐ ☐ ☐
		・様々な問題に積極的に取り組む意欲がある。	☐ ☐ ☐
3 学 期	数学ⅠAⅡBのマーク演習	・一定時間の中で、スピーディー、かつ、正確な計算処理やマーク記入を行うことができる。	☐ ☐ ☐
	2次対策総合問題演習	・様々な視点から問題を捉え、解答を行うことができる。	☐ ☐ ☐
		・様々な問題に積極的に取り組む意欲がある。	☐ ☐ ☐

学習方法	予習を前提とした授業を行う。予習では例や例題を参考に、練習問題に取り組むこと。発展的な内容の問題にも対抗できるよう、一問一問解答をすぐに見ることなくじっくり考え、思考力を鍛えること。
------	---

評価方法	考查評価8割、平常評価2割で総合的に評価し、最終的に100点法の評点、および5段階で評価する。平常評価は課題提出、授業への取り組み等で行う。
------	--

令和3年度 八代高等学校シラバス

教 科	理科	科 目	生 物	学 年	3	類 型	文系
単位数	2	教科書	東京書籍「改訂 生物」				
副教材	スクエア最新図説生物、リードL i g h t ノート生物、ニューグローバル生物基礎						

学習目標	1 「生物基礎」との関連を図りながら、生物や生物現象をさらに広範囲に取り扱い、生物学的に探究する能力と態度を身に付けさせる。 2 生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深めさせ、科学的な自然観を育てる。 3 授業を通して自然を科学的に探究する能力を育てる。 4 命の営みを学習することで生命に対する畏敬の念を育て、生命を尊重する精神を養う。
------	---

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	到達自己評価 A B C
1 学 期	4 編 生物の環境応答 1 動物の刺激の受容と反応、行動 2 植物の環境応答	・動物における情報を処理して正確ですばやい反応を引き起こすしくみ、行動が起こるしくみを理解する。 ・植物の環境応答とそのしくみについて理解する。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
2 学 期	生物の総復習 1 共通テスト対策演習	・「生物基礎」との関連を図りながら、総合的に生物を振り返る。 ・演習問題にあたる。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
3 学 期	共通テスト対策演習	・演習問題にあたる。	☐ ☐ ☐

学習方法	①さまざまな用語を他者に説明できる。②生命現象のしくみを文章で説明できる。この 2 つを到達目標として授業に臨み、家庭学習に取り組む。
------	---

評価方法	①定期考査（課題考査も含む） ②課題 ③授業中の取り組みを総合的に判断し、学期ごとに 100 点満点で算出する。
------	--

令和3年度 八代高等学校シラバス

教 科	地学	科 目	地学基礎	学 年	3	類 型	文系
単位数	2	教科書	啓林館 地学基礎				
副教材	スクエア最新図説地学八訂版・地学基礎研究ノート・チェック&演習地学基礎						

学習目標	日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境への関心を高め、地学的に探究する能力と態度を育て、科学的な見方や考え方を養う。
------	--

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	到達度自己評価 A B C
1 学 期	○大気と海洋 ・地球の熱収支 ・大気と海水の運動 ○地球の環境 ○変動する地球に関する探究活動	・大気の構造と地球全体の熱収支について理解できる。 ・大気の大循環と海水の運動及びそれらによる地球規模の熱の輸送について理解できる。 ・地球環境の変化を科学的に考えることができる。 ・日本の自然環境を理解し、その恩恵や災害など自然環境と人間生活とのかかわりについて理解する。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
2 学 期	(1) 宇宙における地球 ○宇宙の構成 ・宇宙のすがた ・太陽と恒星 ○惑星としての地球 ・太陽系の中の地球 ○宇宙における地球に関する探究活動 ○問題演習	・宇宙の誕生と銀河の分布について理解する。 ・太陽の表面の現象と太陽のエネルギー源及び恒星としての太陽の進化を理解する。 ・太陽系の誕生と生命を生み出す条件を備えた地球の特徴を理解する。 ・宇宙における地球に関する探究活動の方法を理解する。 ・これまでに学んだ知識を用いて問題を解くことができる。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
3 学 期	○問題演習	・これまでに学んだ知識を用いて問題を解くことができる。	☐ ☐ ☐

学習方法	教科書を中心に授業を進めていきます。最低限、教科書の太字について説明できるような学習を行ってください。
------	---

評価方法	考查評価7～9割(定期考查・課題考查)、平常点評価1～3割(課題、提出物、授業態度等)で総合的に評価し、100点満点で評点を算出するとともに5段階で評定を決定する。
------	--

令和3年度 八代高等学校シラバス

教 科	理科	科 目	物 理	学 年	3	類 型	理系
単位数	4	教科書	総合物理 1 ・ 2 （啓林館）				
副教材	リードα 物理基礎・物理（数研出版）、物理研究ノート（博洋社）、図録（数研出版）						

学習目標	・物理的な事物・現象に関する観察・実験などを通して、探究する能力や態度を高める ・日常生活との関わりについて考察し、自然に対する見方や考え方を培い、論理的思考力や課題解決能力を養う
------	---

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	到達度自己評価 A B C
1 学 期	[総合物理1] 第3部 波 ○音 ○光 [総合物理2] 第1部 電気と磁気 ○電界と電位 ○電流	◎音の性質やドップラー効果について理解する ◎光の性質やレンズ・鏡、光の干渉について学び、生活との関連や、光の利用について理解する ◎電場・電位の概念やコンデンサーについて理解する ◎電流のはたらきに関する定量的な処理や、電流と生活との関連、利用方法について理解する	□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □
2 学 期	○電流と磁界 ○電磁誘導と電磁波 第2部 原子・分子 ○電子と光 ○原子・原子核・素粒子	◎電流と磁場の関係性や諸法則を理解するとともに生活との関連を知る ◎電磁誘導や交流、電磁波について定量的な処理や、生活との関連、利用方法について理解する ◎電子に関する内容や、電子・光が粒子性と波動性の両方の性質を持つ二重性について理解する ◎原子の構造や、原子核反応、放射線等について理解する	□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □
3 学 期	問題演習	◎共通テストや記述試験に向けて、様々な問題に意欲的に取り組み、柔軟な考察・正確な計算処理を行う	□ □ □

学習方法	授業を大事にし、物理的な事物・現象に対する概念や法則を暗記するのではなく、理解することに重点を置く。また、疑問に思ったことを確かめてみようという態度をもつこと、毎時間後の復習を徹底し、理解を深める努力をすること。理解をする上で計算力は必須なので、複雑な計算も必ず自分の手で行うこと。
------	---

評価方法	考查評価7～8割（定期考查・課題考查）、平常点評価2～3割（課題、提出物、授業態度等）で総合的に評価し、100点満点で評点を算出するとともに5段階で評定を決定する。
------	--

令和3年度 八代高等学校シラバス

教 科	理科	科 目	化 学	学 年	3	類 型	理系
単位数	4	教科書	改訂版 化学（数研出版）				
副教材	ベストフィット化学（実教出版）、ダイナミックワイド図説化学（東京書籍）						

学習目標	・基礎的な知識の定着の定着を図る。 ・化学の基本的な概念や原理・法則を理解し、自然を科学的に観ることができる。
------	--

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	到達度自己評価 A B C
1 学 期	第4章 化学平衡 第3編 無機物質 第1章 非金属元素 第2章 金属元素（Ⅰ） 第3章 金属元素（Ⅱ） 第4編 有機化合物 第1章 有機化合物の分類と分析	・化学反応の原理を理解し、その量的関係と時間との関連を理解する。 ・化学平衡の概念を理解することができる。 ・各種元素の単体と化合物の性質と関連性を理解する。	□ □ □ □ □ □ □ □ □
2 学 期	第2章 脂肪族炭化水素 第3章 アルコールと関連化合物 第4章 芳香族化合物 第5編 高分子化合物 第1章 高分子化合物の性質 第2章 天然高分子化合物 第3章 合成高分子化合物 問題演習	・有機化合物の概念を形成する。 ・官能基と物質の性質と反応性を理解する。 ・結合による水の溶解度の違いを理解する。 ・糖類の結合と性質を理解する。 ・アミノ酸の結合と性質を理解する。 ・日常生活で用いられる合成高分子化合物の構造と性質を理解する。 ・学んだ知識を活かして問題を解くことができる。	□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □
3 学 期	問題演習	・学んだ知識を活かして問題を解くことができる。	□ □ □

学習方法	教科書を中心にしたプリント学習をします。予習、復習は必ず行って下さい。問題演習では、プリントと問題集を適宜利用します。
------	---

評価方法	各考査の成績と平常点を考慮して、各学期毎に100点満点で評価します。
------	------------------------------------

令和3年度 八代高等学校シラバス

教 科	理科	科 目	生物	学 年	3	類 型	理系
単位数	4	教科書	東京書籍 改訂 生物				
副教材	スクエア最新図説生物、リード Light ノート生物、セミナー生物基礎＋生物						

学習目標	生物に関わるさまざまな現象について理解するとともに、科学的なものの見方や考え方を身につける。
------	--

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	到達度自己評価 A B C
1 学 期	第4章 生殖と発生 (4.動物の配偶子形成と受精から)	・新口動物の初期発生の過程を理解する。	☐ ☐ ☐
	第5章 動物の反応と行動	・動物の形態形成のしくみを遺伝子の発現調節の観点から理解する。	☐ ☐ ☐
	第6章 植物の環境応答	・動物の受容器，神経系，効果器の構造やはたらきのしくみを理解する。	☐ ☐ ☐
2 学 期	第8章 生命の起源と進化	・被子植物の生理調節のしくみを理解する。	☐ ☐ ☐
	第9章 生物の系統	・生物の出現以降の変遷を理解する。	☐ ☐ ☐
	共通テスト対策演習	・進化のしくみについて考察する。	☐ ☐ ☐
3 学 期	個別試験対策演習	・さまざまな生物の特徴と系統関係を理解する。	☐ ☐ ☐
		・問題演習にあたる。	☐ ☐ ☐

学習方法	①さまざまな用語を他者に説明できる。②生命現象のしくみを文章で説明できる。この2つを到達目標として授業に臨み、家庭学習に取り組む。
------	---

評価方法	①定期考査（課題考査も含む） ②課題 ③授業中の取り組みを総合的に判断し、学期ごとに100点満点で算出する。
------	--

令和3年度 八代高等学校シラバス

教 科	保健体育	科 目	体育	学 年	3	類 型	
単位数	2	教科書	最新高等保健体育				
副教材							

学習目標	心身の発達や生活の特性に基づき適切な体力と精神の発達を高め、しかも現在及び将来の生活に活用できる運動能力や技能を身につける。運動を仲間と共に親しみ、協力し合い、安全で安心な社会づくりに貢献できる資質や態度を身に付ける。
------	---

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	到達度自己評価 A B C
1 学 期	豊かなスポーツライフの設計	・生涯にわたってスポーツと豊かにかかわるためのスポーツライフの設計の仕方について理解する。	☐ ☐ ☐
	体づくり運動 体力を高める運動	・自己の体に関心を持ち、自己の体力に応じた課題をもって運動を行い、体をほぐしたり、体力を高めたりすることができる。	☐ ☐ ☐
	ダンス	・音楽に合わせ、リズムカルに体を動かし、皆で力を合わせ協調的・集团的にテーマを表現する。	☐ ☐ ☐
2 学 期	ダンス	1 学期同項目同様	☐ ☐ ☐
	球技 バスケット・バレー ハンドボール サッカー・ソフトボール バドミントン・卓球	・練習や試合の企画運営をグループで主体的に活動する力を身につける。チーム内での自己の役割を考え、自ら体力、技術力、精神力の向上に向け積極的に行動する。	☐ ☐ ☐
	豊かなスポーツライフの設計	・生涯にわたってスポーツと豊かに関わるためのスポーツライフの設計の仕方について理解する。	☐ ☐ ☐
3 学 期	球技 サッカー・ソフトボール バスケット・バレー	・練習や試合の企画運営をグループで主体的に活動する力を身に付ける。チーム内での自己の役割を考え、自ら体力、技術力、精神力の向上に向け積極的に行動する。	☐ ☐ ☐

学習方法	日頃から体調の管理を行いながら、授業に出席し、積極的に自己の課題（体力面・技能的・精神面）を改善・向上させていく。
------	---

評価方法	各運動種目の運動技能・記録計測の実技テスト 8 割程度 出席・授業態度 2 割程度
------	--

令和3年度 八代高等学校シラバス

教 科	英語	科 目	コミュニケーション英語Ⅲ	学 年	3	類 型	
単位数	4	教科書	ELEMENTⅢ(啓林館)				
副教材	Cutting Edge 2 Cutting Edge 3 (EMILE 出版)						

学習目標	基本的語彙力、読解力を高めるために、粘り強く英文を読み解く姿勢を涵養する。教科書に即したワークシートを活用して記述力を高める。問題集に移行後は、様々なタイプの問題に対応する答案作成力を養成する。大学入試に出題される様々なジャンルの英文を読み解き、スキーマの充実を図る。
------	--

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	到達度自己評価 A B C
1 学 期	①ELEMENT より L2 Language Extinction L5 A Class from Stanford Univ. L9 Praying Hands ②Cutting Edge2 より 科学・社会・環境・教育・文化 等の分野の英文	・レッスン中の語彙・表現の理解。 ・重要構文を含む文の理解。 ・本文のアウトラインの理解。 ・段落やパートごとの要点の理解。 ・本文に関する質問に必要十分な情報を盛り込んで解答できる。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
2 学 期	Cutting Edge2・3 より 科学・社会・環境・教育・文化 等の分野の英文	・レッスン中の語彙・表現の理解。 ・重要構文を含む文の理解。 ・本文のアウトラインの理解。 ・段落やパートごとの要点の理解。 ・本文に関する質問に必要十分な情報を盛り込んで解答できる。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
3 学 期	共通試験対策 個別試験対策	・時間内にすべての問題を解きあげる速読力と情報検索力をつける。 ・各大学の様々な問題に解答できる記述力をつける。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐

学習方法	・該当レッスンの読解ワークシートに各生徒が自分の力で予習に取り組む。 ・予習した内容をベースにして授業で内容理解を深める。 ・自分の考えを英語で表現しあう活動を授業中に行う。
------	---

評価方法	・定期考査 ・小テスト ・予習・提出物の状況 ・スピーキングテスト ※上記の項目を踏まえて総合的に評価する。
------	--

令和3年度 八代高等学校シラバス

教 科	英語	科 目	英語表現Ⅱ	学 年	3	類 型	文／理
単位数	3／2	教科書	Vision Quest English Expression Ⅱ(啓林館)				
副教材	入試必携英作文(数研出版)						

学習目標	2年次に学習した基本的な例文や構文知識をもとに、根拠に基づいた意見の主張や、完成度の高い英文表現ができるようになることを目指す。
------	--

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	到達自己評価 A B C
1 学 期	・主語の決定(1)(2) ・目的の表現 ・理由の表現 ・時制(1)(2) ・動詞の語法 ・関係詞 ・自由英作文	それぞれの文法項目の形式の理解。 それぞれの文法項目の意味の理解。 それぞれの文法項目の機能の理解。 基本的な表現の活用。 発展的な表現の理解。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
2 学 期	・時間・数字の表現 ・仮定・条件 ・比較の表現 ・譲歩の表現 ・重要表現 ・自由英作文	それぞれの文法項目の形式の理解。 それぞれの文法項目の意味の理解。 それぞれの文法項目の機能の理解。 基本的な表現の活用。 発展的な表現の理解。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
3 学 期	・個別試験対策	各大学の英訳問題に対応できる英作文力をつける。 自由英作文では自分の主張、考えを的確な英文で表現できる。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐

学習方法	該当レッスンの演習問題に各生徒が予習で取り組む。 予習した内容をベースにして授業で解説し、理解を深める。 即興的な自己表現も授業中に行う。
------	---

評価方法	・定期考査 ・小テスト ・予習・提出物の状況 ・エッセイライティング(自由英作文) ※上記の項目を踏まえて総合的に評価する。
------	---